

『地域活性化のための交通インフラのベストミックスとは』

北海商科大学 商学部教授 佐藤 馨一(さとう・けいいち)



略歴:1944年青森県弘前市生まれ。1967年北海道大学工学部土木工学科卒業、同年建設省入省。北海道開発局土木試験所、小樽開発建設部勤務を経て、1975年文部省へ出向、北海道大学工学部土木工学科助手。1985年同助教授、1992年同教授。以降同大学院工学研究科都市環境工学専攻教授、公共政策学連携研究部教授、工学研究科北方圏環境政策工学専攻教授。2008年から現職。北海道地方交通審議会委員(国土交通省)、北海道運輸交通審議会委員(北海道)などに就任。2008年北海道科学技術賞受賞。

1. ベスト・ミックスによる効果

インターネットの普及により自宅に居ながらして色々な情報を入手し、世界中を疑似旅行できようになった。交通の小定義は「人の移動」であり、中定義は「人および貨物の移動」であり、大定義は「人、貨物および情報の移動」となる。ベスト・ミックスの効果を人の交通と情報についてまとめると、次のようになる。

① **代替効果:**情報が交通の代わりにするもので、インターネットによる疑似旅行やメール等で資料を送ることにより交通量が減少する。

② **補完効果:**相手の都合を情報システムで確認し、出かけていく。

③ **相乗効果:**メール等のやり取りをしているうちに会いたくなり、懇談するオフ・ミーティングに出席する。

インターネットやメールの課題は盗聴や、ウィキリークス等で暴露されることである。本当の情報は人と人との会談によって交換されるのであり、情報システムが発達した今日でも G8 のサミットが重視されるのはこのためである。交通インフラをベスト・ミックスする目的は代替効果、補完効果、相乗効果を生み出すことにある。

2. 交通インフラのベスト・ミックス

① 情報と交通のベスト・ミックス

高齢化が進み、人口の減少する北海道ではバスなどの公共交通機関の存続が危ぶまれ、しかも免許証のない人は生活用品さえ入手できない事態になっている。このような地域では、インターネットとタクシー等のベスト・ミックスによって対応することも可能である。しかしインターネットやタクシーが使えない人々は、どうしたらよいのだろうか。広大な生活圏をコンパクト化し、都市と交通、情報のベスト・ミックスによる新しい方策を打ち出す必要がある。

② 人の移動と貨物の移動のベスト・ミックス

北海道新幹線の札幌延伸に暗雲が漂い始めた。ここで改めて北海道新幹線の活用方法を交通のベスト・ミックスの点から考えてみよう。新幹線は人だけを運ぶ交通機関と考えられているが、それは車両の問題であり、線路は客車も貨車も走行することができる。東海道新幹線は当初計画において人の輸送に失敗したら、貨物を運ぶことを想定していた。

国鉄が分割民営化され、旅客会社と貨物会社に分離されたことによって新幹線による人と貨物輸送のベスト・ミックスが遠のいた。しかし北海道新幹線は人よりも貨物が多い北海道の地域特性を踏まえてそのベスト・ミックスを、たとえば JR 北海道が開発しているトレイン・オン・トレインの実現を図る必要がある。

③ 空港と港湾のベスト・ミックス

石狩湾新港は国の投資が行われる重点港湾に指定され、札幌圏のみならず北海道の発展に重要な役割を果たすことになった。石狩湾新港は中国東北部やロシア極東部との交流に不可欠な港湾であり、この港湾をさらに高度利用するために丘珠空港とベスト・ミックスが重要である。丘珠空港は札幌都心部から6km と近いが、滑走路が1500mしかなく、ジェット機は離着陸できない。このため滑走路を300m 延伸し、CRJ200 等の小型ジェット機の就航を可能にするべきである。20年ほど前、丘珠空港の滑走路延伸が検討されたことがあったが、地域住民の反対等で撤回された。しかし現在、地域住民から滑走路の延伸を期待する声があり、機は熟している。丘珠空港はロンドンのシティ空港(滑走路1500m)のようにビジネス空港化し、重要情報を持参する人の移動に活用したい。